

会報 第22号

# みなみあいづ

発行 令和4年10月1日  
発行者 福島県公立学校退職校長会  
南会津支部長 小林宗一



幽玄の美 檜枝岐歌舞伎

約270年の歴史と伝統に支えられ

およそ100年 千葉之家花駒座と共に

福島県公立学校退職校長会・南会津支部

会報 第22号

# みなみあいづ

発行 令和4年10月1日  
発行者 福島県公立学校退職校長会  
南会津支部長 小林宗一



滝湖のコハクチヨウ(只見町)  
2011夏 新潟・福島大水害で数年  
飛来せず ようやく 少しずつ回復

福島県公立学校退職校長会・南会津支部

会報 第22号

# みなみあいづ

発行 令和4年10月1日  
発行者 福島県公立学校退職校長会  
南会津支部長 小林宗一



復興「JR只見線」(只見町)

なつかしの キハ40系

復興ヒマワリと 蒲生岳

福島県公立学校退職校長会・南会津支部

会報 第22号

# みなみあいづ

発行 令和4年10月1日  
発行者 福島県公立学校退職校長会  
南会津支部長 小林宗一



あがりこの森(只見町蒲生具奈川)  
大昔に雪上伐採 今はメルヘンの世界

福島県公立学校退職校長会・南会津支部

# はじめに

公立学校退職校長会南会津支部長  
小林 宗一

会報「みなみあいづ」第22号の発行に当たり一言ご挨拶申し上げます。今年度も南会津教育事務所長様、南会津町教育長様、郡小中学校長協議会長様、そして会員の皆様から貴重なご寄稿をいただきました。ありがとうございました。

さて、今年度はコロナ禍の中であり、懇親会は中止しましたが3年ぶりに現職・退職校長会合同研修会を開催することができました。お忙しい中ご講演くださった、下郷町十文字の「星見台」台長・岸 正一様、会員の湯田耕衛様には心より感謝申し上げます。おかげさまをもちまして大変有意義な研修会となりました。来年度は、懇親会が開催でき、現職の校長先生方と懇親を深めることができますことを期待しています。

会報「みなみあいづ」は年に一度の発行ですが、会員の様子や支部活動の様子、会員の思いなどを知る上で大きな役割を果たしていると思っておりますので、今後とも読みやすく何でも語り合える会報にしていきたいと考えております。会員の皆様のご支援ご協力よろしくお願いいたします。

## 目 次

○ ごあいさつ	はじめに -----	小林 宗一	P 1
支部長	福米沢は隠れ ----- キリシタンの里だったのか	小林 宗一	P 2 3
副支部長	俳句とESD -----	齋藤 修一	P 4
○ 特別寄稿	南会津夢教育 2022 -- 県教育庁南会津教育事務所長 ----- 武口 隆行		P 5 6
	S先生との思い出 -----	南会津町教育長 星 英雄	P 7
	おめえらの投げた ----- ごみ拾ってんだ	南会津町静川 堀金 洋子	P 8
	映画 峠 ----- 最後のラストサムライ	只見町小林 角田 行雄	P 9 10
	お天道様と ----- カメラは見ている	会津若松市 渡部 岩男	P 11
	エピソード -----	郡小中学校長協議会会長 大桃 豊	P 12 13
○ 合同研修会だより -----	事務局から		P 14 15
○ 趣味の活動 ~川柳 俳句~ -----	支部会員		P 16
	編集後記		
	役員一覧		P 17

## 福米沢は隠れキリシタンの里だったのか

公立学校退職校長会南会津支部長

小林 宗一



マリア観音のある福米沢は隠れ切支丹の里であったのかについて述べてみよう。

会津に切支丹が多いのには、切支丹大名であった蒲生氏郷の影響が大である。氏郷は天正13年(1585)頃洗礼を受けて、霊名をレオと言った。会津吉利支丹の布教は、天正18年(1590)蒲生氏郷入部以来のことであり、元和年間(1615年~1624年)の頃がもっとも普及したと考えられる。信者数が多いのは、猪苗代地区と南山地区であった。南山地区は二つに分けて栗生沢・水無地区を中心とする田島地方と、長井野を中心とする大沼郡東部(高田)である。南山地区は氏郷の姉に当たる方を室とした小倉孫作が城代を勤めていたからと思われる。寛永2年(1625)には、会津に洗礼者360人という記録がある。

しかし、蒲生氏郷が没した寛永4年(1627)前後より全国的に吉利支丹弾圧は厳しくなっていた。加藤嘉明の城主時代の寛永八年(1631)には会津地方で切支丹弾圧があり、12月に若松に於いて52名が火刑または斬首に処せられた。このあと25年間にわたって徹底的な弾圧と厳しい取り締まりのため切支丹は次第に影を潜めていった。

それでもなおキリスト教を信じるものがいました。隠れ切支丹です。

南会津町福米沢に祀られているマリア観音について述べてみよう。



南会津町指定重要文化財

石造子安観音(マリア観音)座像(昭和57年7月10日指定)

総高135.8cm、座像44.4cmあり、像の天冠正面にギリシャ文字で十字が刻まれている。観音像の台座には、「当村女講中 文化四年(1807)七月十七日」の銘がある。在座と観音は石質が異なり観音ははるかに古いと考えられる。

子安観音堂は、街道筋に茅葺きのお堂に祀られていて安産、子育てなどの祈願所であった。古老の話によると昔は南の山の麓に埋もれていたものを街道筋に移したとか、誰かが運んでくる途中重くてここに置いていったなどの話がある。

マリア観音は、江戸時代からこの地区にあった。そして女講中も組まれ台座まで作り観音様として祀っていた。ここでの大きなロマンは、当時の人も子安観音の額に十字が刻まれていることを知っていて祀っていたのではないかということである。台座まで作っているのだから刻まれた十字のことを知らないわけではないと思える。切支丹穿鑿

の厳しかった江戸時代、マリア観音のことを役人に届け出なかったのは隠れ切支丹であったからなのかもしれない。あるいは、村にマリア観音があることを役人に報告したら、さらなる村への穿鑿が厳しくなることを恐れたため、子安観音として明治の期まで隠し通したのかもしれない。

明治6年(1873)3月24日、太政官布告第68号により切支丹禁制の高札が撤去された。会津では、明治12年(1879)に若松で最初の布教の灯があげられた。明治16年(1883)1月、フランス人ヴィキロスが、若松栄町に教会設立の認可を得て本格的に布教を始めた。このときの洗礼第1号は福米沢の湯田初次郎(ヨゼフ)であった。

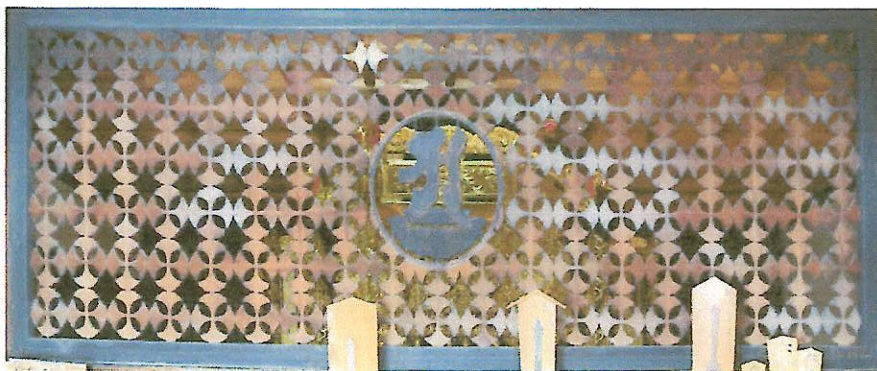
現在、福米沢には教会もあり3件の信者宅がある。信者である福米沢兎山氏の墓碑には明治37年になくなった方の名が刻まれた墓碑がある。明治期には6軒の信者宅があったようである。福米沢の湯田初次郎が最初に洗礼を受けた明治16年以来確実にキリスト教信者は増えていったと思われる。

福米沢村は隠れ切支丹の村だったのかどうか再度考えてみよう。

なぜ最初の洗礼者が福米沢村の湯田初次郎だったのであろうか。明治期になぜ6軒もの信者宅があったのであろうか。それはマリア観音とのかかわりがあったからなのではなかろうか。キリスト教を受け入れる素地があったからなのではなかろうか。つまりは、隠れ切支丹であったからなのかもしれない。

切支丹研究家の中には福米沢は江戸時代には大鹿原村といったが、福は福音の福、米は「十(クルス)」で隠れ切支丹の村に間違いはないという人もいる。しかし、田島町史第6巻には、大変貧しく苦しい村だったため寛永八(1631)年八月に米が多くとれ豊かな村になるよう今の福米沢村に改名した記されている。

常楽院の十字をあしらった銀杏の葉の欄間から福米沢村は隠れ吉利支丹の村という説もあるがこれも像想の域を脱し得ない。



←十字に彫られた銀杏の葉の欄間(常楽院)

福米沢の教会は、昭和10年(1935)に聖堂が建設され、2月6日に聖堂祝別式が行われ、聖ヴィンセンシュフェリリオ聖堂と命名されている。建設時に整地した折り、聖具が出た(会津のキリシタン「山内 強著」昭和59年)といわれたが何も残っておらず定かではない。

福米沢のマリア観音についてのべてみたが、福米沢が隠れキリシタンの里であったかについては全くその痕跡は残されていない。想像の域を脱しない。しかし、ロマンのある話ではなかろうか。

## 俳句とESD

副支部長 齋藤修一



今何しているの？とよく聞かれます。今だからこそ自分の好きなこと、自分にできることに挑戦することがいいのかなと思ひ日々生活しています。

### 1 俳句への挑戦

#### (1) 青空を 切り裂いて落つ 屋根の雪

(令和4年 2月)

久しぶりに晴れ間になった時車庫の屋根から落ちる一瞬の雪を詠んでみたのですが、「裂く」と「落つ」の動詞が二つよりは「裂く」一つに収れんした方が様子が分かるのご指導を得て、「青空を一気に裂いて屋根の雪」としてみました。

#### (2) 鼻かみて 次の一句や 寒の内 (令和4年 3月)

提出期限が迫っているにもかかわらずなかなか俳句にならず難儀している時の様子を苦し紛れに詠んでみました。すると「俳句らしい滑稽さがある」との思いがけない評をいただきました。もしかするとうまい俳句を作ろうと思ひすぎていたのかもかもしれません。

#### (3) 戦争に 微力なこの手 水温む (令和4年 5月)

ウクライナ戦争のニュースを見ながら今の時代にこんなことが起きたことに強く憤慨し、その解決に何もできない自分にもどかしさを感じ詠んでみました。今はウクライナ戦争と分かりますが、30年後にこの句を読んだとき「微力なこの手」の意味が正確に伝わるでしょうかとの評をいただき、そこまで考えて俳句は詠むんだと驚きました。

## 2 ESDへの挑戦

### (1) ESDって何？

意識すれば「持続可能な地域を担う人材育成教育」です。地域とは、自分の住むふるさととは勿論のこと、広義では地球そのものも意味します。これは世界的な教育の潮流であり、やっと日本にもその考え方が波及し、今回の学習指導要領の改訂の中核的な考え方に位置づけられた概念です。更にSDGsの17の目標を達成する為にはESDの人材育成が必須とされています。

### (2) ESDの授業づくりをしてみませんか？

全く新しい取組をすることではなく、今までの教育活動をESDの視点を入れて質的な改善をしていくことでいいのです。特に3ステップ「知る→気づく→行動する」を意識することで児童生徒の学習意欲は確実に深まります。

そのお手伝いをいたしますのでぜひご連絡ください。



## 一人一人が夢をかなえられる教育を目指して ～南会津夢教育2022～



福島県教育庁南会津教育事務所長 武口 隆行

南会津教育事務所では、県教育委員会の重点施策をもとに、「南会津の風土を踏まえ、一人一人が夢をかなえられる教育を目指して」を目標に掲げ、『南会津』がつむぐ』をキャッチフレーズに、学校教育・社会教育、合わせて6つの重点事項を設定しています。その中から、今年度の取組の一部を紹介します。

【自ら学ぶ子供の育成】においては、域内校長研修会を開催し、『自ら学ぶ子供』を育てるためにどのような指導をしていけばよいのか』をテーマに、小中高の校長先生方による協議を行いました。協議の中では、「教師の話す量が多く、『教える』授業から『学ぶ』授業への脱却が必要」、「子供が学びたいと思う仕掛けづくりが大切」、「良好な人間関係や友達との関わりが基盤」といったことが話題となりました。

今後開催される教員対象の「学級・授業づくりセミナー」において、一人一人が個性を伸ばし、自己実現できる学級づくりを大切にしながら、自らの学びを実感できるような指導の在り方について研修を進めてまいります。



【域内校長研修会の様子】

【こころ豊かな子供の育成】においては、「ふくしま道徳教育推進プラン」に述べられている、「大震災を経験した本県だからこそ、子供たちに『命の大切さ』『家族や地域の絆』『思いやり』『郷土を愛する心』等を育み、多様性を尊重し温かな人間関係を築く『家族や地域社会等との連携を図った道徳教育』」の考え方を大切にしています。域内でも、推進プラン事業に基づき、田島第二小学校で道徳の授業研究を行いました。授業では、手品師の話「自分事」と捉え、「明るく生活するためには何が大切か」を真剣に考える子供の姿が見られました。

今後も「ふくしま道徳教育資料集」等を活用しながら学校教育全体と関連させた道徳教育を推進し、「こころ豊かな子供の育成」に向けた実践を推進してまいります。



【田島第二小学校での研究授業の様子】

【からだを大切にする子供の育成】においては、本年度「食育・健康教育の充実」を指導の重点としております。小中高学校体育担当者連絡協議会では、会津・南会津地区の公立小中学校，高等学校の教員が参加し，県の事業説明を受け，「自分手帳」の効果的な活用，本県の課題に対する授業づくりについて演習を行いました。

今後，体力の向上や健康教育の推進では，学校の教育活動だけでなく，家庭や地域と連携しながら「健康マネジメント能力」を育成していくことが重要であることを共有しました。

【自分手帳】



【特別支援教育の充実】においては、「個別の教育支援計画の活用」を指導の重点にあげています。教育支援協議会では，学校間の引継ぎが話題となり，有効活用するには日々の「うまくいった支援」を具体的に記載するなど，記録を積み重ねていくことが大切であることが確認されました。

今後，子供たちの自立と社会参加を見据えて，今の学級集団の中でどのような支援と指導をするべきか，丁寧な実態把握と教育的ニーズの整理を中心に進めてまいります。



【教育支援協議会の様子】

【学校・家庭・地域が一体となって取り組む「人づくり」「地域づくり】においては，復興を担うたくましい「人づくり」，協働体制を構築する「地域づくり」を目指し，情報発信に努めております。特に「地域学校協働連携活動」「放課後子ども教室活動」「公民館事業」を中心に訪問し，生き生きとした児童・生徒の姿や，地域の生涯学習の起点となる特色ある公民館の取組を域内に広め，4町村の“横のつながり”に結びつけたいと考えます。また，各種研修会では「意見交換」の時間を確保し，さまざまな取組や考えに触れる時間を有効に活用することで，“オール南会津”の精神で社会の諸課題に取り組む体制づくりやそのきっかけづくりに貢献したいと考えます。

今後も，学校・家庭・地域・行政が一体となり，南会津の子供たち一人一人が夢をかなえられる教育を目指してまいります。



【地域学校協働活動：江川小】



【読書活動推進：只見小】

## 「 S先生との思い出 」

南会津町教育長 星 英雄



今、わが家では、ちょっとステキな音が流れている。S先生が愛用したオーディオがあるからだ。2年近く前に亡くなられた先生のご家族から、無理言ってこの夏頂いたものである。

(S先生ありがとう)

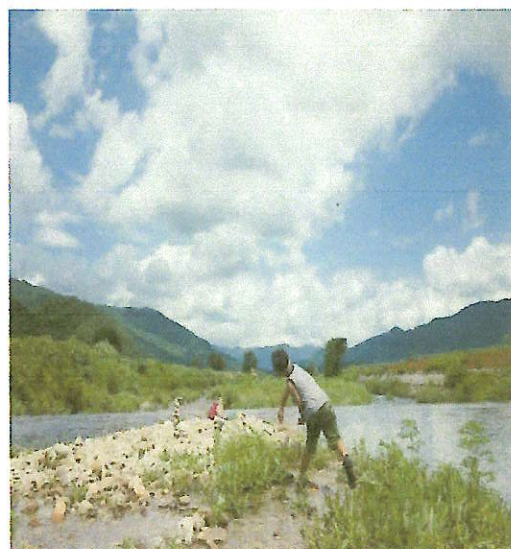
S先生との出会いは、まだ私が若造だった頃で、兄貴のような存在だった。行動派で多趣味、常に前向きな先生からは、生徒指導の極意だけでなく、まだまだ走りだったコンピュータやワープロをはじめ、酒の飲み方など様々な事を学んだ。そして、いつの時でも「こうしたい。ああしたい」と未来を語る姿に、ついて行けないくらいのエネルギーを感じていた。

月日が経ちS先生との縁も少し薄れたある日、先生から電話が来た。「次の教頭、お前だつて」と。先生が教頭をしている学校に、初めて教頭となる私が後任として行く事になったのだ。(助かった) S先生との縁が又始まった。その後、教頭会、校長会、事務所勤めなど、いろいろな機会でも顔を合わせては、昔と変わらないエネルギーで未来を語ってくれた。

今の職に就くことになった時も、教育長をしていた先生から電話が来た。「星先生、学力向上なんて言っていたら、その子どもがいなくなるぞ」と。(その通りだなあ) 常に未来を考えている先生らしい就任祝いの言葉だった。同業となつてからも、先生のエネルギーギッシュな話から勇気を頂き、自分の励みにした。

そんな先生が仕事を離れ、やりたいことを始める矢先に逝くことなど、誰も予想しなかった。無論、先生自身が描いた未来にもなかったはずである。(残念)

「未来を語るは若者、過去を語は年寄り」と言われるが、S先生は万年青年だったと思う。先生と同じにはなれないが、私も未来を思い、「こうしたい。ああしたい」という気持ちを、忘れないでいたい。もし忘れそうになつても、このオーディオの音が思い出させてくれると思う。ただ、流れる音楽が古い思い出の曲ばかりなのが少し心配である。(過去の思い出も大切)



【夏空に 届けとわらし 石放つ】  
未来の話には、子ども達の存在は欠かせません。私達の大きな楽しみですね。

## おめえらの投げたごみ拾ってんだ

南会津町静川 堀金洋子



今年傘寿となった。気持ちはまだ青春時代のつもりだが世間には通用しないと自覚している。「不携帯」で息子からの嫌味なんてどご吹く風だが、かの有名な親鸞聖人のいくつかのお言葉に感動させられた。学校一筋の人生だったので、世間一般の事を何も知らなかったと。

「悪人でも生きていいのだ。縮こまって逃げ隠れせずに生きていい。」と教養だけで80才・90才頃からやり続けるのは無理なので、50才・60才頃から、新しい

いことを見つけ自らを再活性化することが大事であることを学び、退職後 南会津町田島防犯指導隊に入り現在に至っている。一応名前だけの隊長として、南会津警察署生活安全課との連携活動を毎月実施している。隊員の職業も多種多様な皆さんで、団結力も素晴らしい仲間達である。遠慮もなく、言いたいことを言う場が、この3年間できないことが(飲み会)、心に残るが我慢の日々である。退職校長会の皆さんも同じ思いでしょうね。(懇親会・・・残念)

南会津町も合併してから安定した行政運営となり、4月からは新しい町長さんには更なる期待をしているところです。東西の壁もなくなりましたし、前町長さんの後援会長をも協力しておりましたので、2年前頃から、駒止峠近辺道路の「ごみ拾い」を・・・最初の頃はごみ袋3つ位になっていましたが、この頃は雑草の中に捨てていくのか、なぜか少なくなったような・ならないような。そんなある日、「東集落」から湿原入り口道路で「ごみ拾い」を。捨てる方も賢くビール缶もしっかりと潰して、残飯と一緒に草むらに捨てていくし、中には封も切らずに【勿体ない・・・バカ者が】と、戦中時代は怒りの塊です。もしかしたらと橋の下にもか・・・と眺めていると、「おばさん、何しているんですか？下は川ですよ。」群馬ナンバーの車が3台止まり、中から男性達が2人・・・橋の下は川に決まっているべ。なんだおめいら・・・

多分、彼らは紫頭の妖怪婆あが【嫁さんと喧嘩でもして飛び降り？】だろうとはこちらの想像です。「ごみ拾い」事情を話してごみの持ち帰りを説教混じりに言ったら、慌てて去って行ったので、多分彼らも常習犯だなと推察しました。先日は、生後間もない様なオムツがどっさり、〇〇雑誌も。大人になれない同士が性の快楽のみで産まれた子どもが可哀想です。

学校もタブレット時代です。どんなに時代が進化しようが、保育園の先生の話では、家庭での家族としての生き方を覚えさせられ保育所に入所した園児は、態度姿勢から自己存在をアピールできるとか。家庭内の円満さが想像出来ます。私は昨年まで、秋田犬を育てていましたが高齢のために亡くなりました。家族同様だったのでまだ納骨せずに仏間にて、毎日ビールを開け、匂いをかませたら、後は御主人様の喉ごしへと。秋田犬は日本犬なので、毎日夕ご飯をしっかりと。「あなたは日本犬だから、お米を食うんだよ。」先ほどの保育園の先生の続きの会話から、保育園の昼食は、和洋折衷なので園児の中には、箸の使い方が出来ない園児が数名おり、保護者に連絡すると・・・『私のところは、ナイフ・フォークです。』だって

核家族化が進み、古来からの日本の伝統として続いてきた家族制度はどうなるでしょうかね。

## 「映画「峠 最後のサムライ」全国公開になって 新潟県長岡市と福島県只見町の繋がりに想う

只見町河井継之助記念館ボランティアガイドの会代表  
奥会津只見 継之助会会長 角田 行雄



この6月29日は私にとっては待ちに待った日でありました。というのも、2018年秋に“司馬遼太郎原作の「峠」が映画化され主人公の河井継之助は役所広司”という話が私達に飛び込んできました。それで河井継之助記念館の関係者が集まり「これは只見町を全国に知らしめる千載一遇のチャンス」とばかりに急遽「奥会津只見 継之助会」を立ち上げ、即、映画製作の協賛金集めに入ったわけです。映画製作は順調に進んで終了したのですが、新型コロナウイルス流行で2度までも全国公開が延期されて、漸くこの日「湯ら里」で鑑賞することができたのです。

さて、私がボランティアガイドをしている只見町河井継之助記念館ですが昭和47年開館であります。それも長岡人の故・稲川明雄先生のご指導の賜ものであります。先生は本気になって河井継之助の終焉の場にふさわしい在り様を考えてくださいました。以後リニューアルがありますが、現在も只見全町民を超える年間5,000人前後の入館者があって、長岡からの来館者は毎年多いのです。数校の小学校の修学旅行の日程に組まれたり、普段の記念館の駐車場には長岡ナンバーの車が毎日のように見られたりしています。

館内は河井継之助の年表、3か月間の北越戦争、ガトリング砲（複製）、司馬遼太郎コーナー、会津只見の戊辰戦争、継之助終焉の間などで構成されていますが、是非とも皆さんにお知らせしたいことは、昭和12年当時まだ海軍中将だった山本五十六が河井継之助のための石碑を終焉の地・只見に建立することに祝意を示して文を寄せていることです。いま、当館の奥庭には当時のままの石碑が凛として立っていて裏面には呼びかけに応じた方々の氏名が刻まれています。長岡からいらした方はどなたも裏面まで熱心に読まれ、中には「あっ、この方の名前知ってる！」と感激される場合があります。また、山本五十六本人が書いた文も展示されていてその熱い想いが伝わってきます。

私は只見で河井継之助記念館のガイドをしていてつい“150年以上も経って今なお長岡と只見を繋ぐものとは何なんだろう”と考えるのですが、継之助の細骨が眠る只見町塩沢の医王寺では150余年の間欠かさず継之助の命日8月16日に墓前祭が執り行われてきています。これは東日本震災の年も、そして新型コロナ禍の中にあっても続けられています。

只見町の記念館のパンフレットには“不本意な形で巻き込まれ、義のために戦った長岡藩家老河井継之助と、継之助の義に心を打たれ、長岡藩一行を温かく迎え入れた只見の人々”と述べられています。この義についてはもっと詳しい深い意味があるのですが、私は、継之助は当時の大半の藩が日本の未来について何の深い考えもなく西軍になびく中で、映画の役所広司の長広舌の語りにあったように長岡藩を拠点に日本の未来を見据え、幕府を中心とした新体制を考え、併せて徳川宗家への大義・恩義に忠実に生きようとした義の心だろうと思うのです。一方只見の人々は長岡藩の武士や家族を見て、また、会津藩士である丹羽族(やから)の職務遂行のための自刃もあって人の道としての義の心でもって応じたのではないかと考えております。それに只見地方は昔から越後地方と交流があって“身内の人々”という感覚があったのかもしれない。以前、只見地方に多く見られた家屋の「厩(うまや)中門(ちゅうもん)造り」は越後大工の手によるものですし、農具や着物類は越後物だったのです。その気持ちが大切にされて続いているのではないのでしょうか。そう言えば山本五十六も一直線に真珠湾攻撃に行ったのではなく“不本意ながら”攻撃しなければならなかったと言われております。長岡市河井継之助記念館と共に只見町河井継之助記念館もこれからも語り継いでいくつもりです。



河井継之助  
1827年～1868年

## ■河井継之助の略歴

長岡藩士・河井代右衛門の長男として生まれた河井継之助。

7万4千余石の長岡藩(現在の新潟県長岡市)では中級の藩士です。その河井家は代々、能吏の家柄で、父代右衛門も勘定頭を務めていました。

文政10年(1827年)元旦に生まれた継之助は、名を秋義といい、蒼龍窟と号しました。子どもの頃から意志が強く、激しい気性の持ち主でした。

慶応元年(1865年)、郡奉行に登用されると、次々と改革を実行していきます。町奉行、奉行、家老に進み、藩政改革は大いに実を結んでいきました。

しかし、明治維新を迎え、継之助は武装中立の姿勢を貫こうとしますが、慶応4年(1868年)5月、小千谷談判は決裂して、長岡藩は西軍と戦う事になります。

一度は落城した長岡城を取り返す快挙をはたしますが、その際受けた負傷で42歳の生涯を閉じます。

その人生は、作家・司馬遼太郎の『峠』などによって広く知られるようになりました。

出典：只見町 河井継之助記念館 パンフレットより

## 「お天道様」と「カメラ」は見ている！

会津若松市真宮 渡部 岩男



昔、子どもたちは「お天道様が見ているんだからね」と言われてきた。誰が見ていても見ていなくても、どんな時でも「お天道様」が見ているんだから悪いことをしちゃいけないよと教えられたものだ。「お天道様」が何を意味するのか、「悪いこと」とはどんなことか、そんなことを改めて尋ねたこともないが、なんとなく「悪いこと」をしてはいけないことは分かった。そして「お天道様」は私たちの善い行いも見ている。「お天道様が見ている」には、そんなニュアンスも感じられる優しさがあった。

しかし、現在私たちを見ているのは「お天道様」ばかりではない。「カメラ」もしっかり私たちを見ている。テレビニュース番組を見ていると、いろんな事件・事故の様子が映像で流れる。交通事故、火事、強盗、窃盗、犯人追跡・確保の様子、不注意な失敗・・・など、どれも驚きの映像ばかりだ。少し考えればわかることだ。

今はどこにでもカメラがある。防犯カメラ・スマホ・デジカメ・隠しカメラ・見守りカメラ・ドライブレコーダー・パソコン・眼鏡・ペン・ライター・・・どこにでもカメラが付いている。そして「お天道様」より怖いのは「カメラ」にはお目こぼしができないことだ。いつでもどこでも冷たいカメラの眼が私たちを見ている。どんなに善行を積んできた人間にも「カメラ」の眼が向けられている。これまでの品格ある人生を、もしくはこれからの品格ある人生にも「カメラ」は見向きもせず、ただ冷たく容赦なく目の前の悪事や不注意な失敗を見つめている。「カメラ」は善行も映しているのだがニュースの話題に載ることは何故か少ない。「カメラ」に責任はない。そのカメラの眼を使う人間の心が冷たいのだろう。

私は、8月から立て続けにカメラ撮影の予定が入った。胃カメラと大腸カメラ。そしてすぐに心臓のCT。そしてまた胃カメラを飲んでポリープ切除。7月に肺をレントゲン撮影したばかりなのに。カメラが人体の中にまで入り込んで写しまくり、それがITによって処理・保存され、やがて天国の門の前に立つその前にそれらの映像が映し出され、AIによる「公正」な判断によって人間が資源ごみのように分別されていく姿が思い浮かぶ。「カメラ」と「AI」と「IT」が手を結んだ監視社会が私たちを見ている。小心者の私はITともAIとも手を切り、できるだけカメラを避けながら道の片隅を歩いている。そのことによって義理を欠くことがあったらお許しいただきたい。「お天道様」に見守られていた子どもの頃が懐かしい。」

## 「エピローグ」

南会津郡小中学校長協議会長 大桃 豊



退職への秒読みが始まって、自宅の古い書簡を整理していると、教師になった1年目に、大学の広報に依頼されて書いた原稿が出てきた。以下その原文の一部である。

(前文省略)

暗中模索、試行錯誤の日々、緊張と疲労困憊の中で、なぜあんなに勉強してまで、こんなに苦しい職業をあえて選んでしまったのかと、後悔したことも幾度となくあった。神経を磨り減らしながら、どんなに頑張っても、他の先生方の半分も仕事を処理することができない。ちょっとでも気を緩めれば、子ども達が次々と問題を起す。

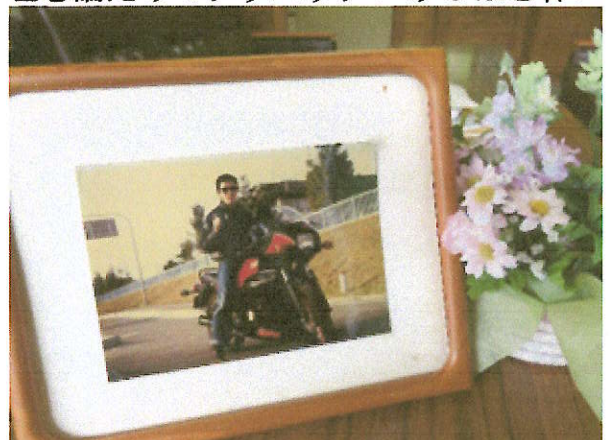
東京、盛岡と自分勝手に生きてきて、理想と夢ばかり追い求めて来た学生時代の甘さを、今更ながらに思い知らされる。

思えば人生とは本当に不思議なもの。子どもの頃は可も無く不可も無く、担任の先生からみれば本当に印象の薄い子だったと思う。不器用で愚鈍な私は、家庭科の時間に針に糸を通すことができず、他の友人達が運針の練習に励む中、ただひたすら手垢に汚れた白糸を嘗めていた。それが今、教える立場にあるのだから……。しかしそんな劣等感が、いつしか子どもに優しく寄り添える教師になろうという思いに変わっていったのだと思う。

実際に教壇に立ってみると、優しく、子ども達に好かれる教師になることは、至難のことだと痛感する。むしろ厳しく、恐い先生になることの方がどんなに楽で、精神的な負担が少ないことか……。教師の多くが、この後者の誘惑にとりつかれて変貌していくのが、今なら少し理解できる。そして、本当に優しく純粋な者達が、この負担に耐えきれず脱落していくのを目の当たりにする。

酒を止めて、職場での煙草を控え、周囲の先生方の教えは全て唯々諾々と受け入れる。大学時代の友人達が知ったら、なんて情けない姿に成り下がってしまったのかと嘆くだろう。しかし、実力のない者が、熱意と机上の理想論だけでツッパッテいけるほど甘い世界ではない。

学生時代、黒の革ジャンにサングラスをかけて、単車を転がして通学していた私が、今では中古の軽自動車にヨレヨレの背広姿で通勤している。型は古く、馬力も無く、おまけに初心者マークまで貼ってある我が愛車は、まさに今の自分そのものである。



今は眠れる羊でも、きっといつかは……





そう思って今の私は頑張っているつもりだ。

後輩諸君には、本当に君達がこの世界で共に戦っていくつもりなら、しっかりと拳を握りしめ、根性を決めて入ってきて欲しい。そういった者に対しては、先輩達は決して力を惜しむことはないだろう。

辛く、厳しい毎日ではあるが、私のような者でも、先生、先生と言って子ども達が駆け寄っ

てくる。ただそれだけが嬉しくて、ただそれだけを支えに、每晚二つの目覚ましをセットして床に就く。

この青臭い原稿を読み返しながら、しばらく時間が止まり当時の自分と対峙した。もしも当時の自分が目の前にいたなら、こう言ってやりたい。

「教師になってたかが1年目で、教育の現場が分かったような気になるなよ。まだまだその先、壁は幾つも立ちはだかる。今ある苦労などほんの始まりにしか過ぎない。拳を握り直して、根性を決めなくてはならないのはおまえの方だ。」

岩手の大学を卒業後、私はそのまま初任からの3年間を岩手で過ごした。当時仕えた校長は17歳で教鞭を執ったという叩き上げの方で、県内においてもその厳しさが知れ渡っていた。これまでの人生を振り返っても、あれほど一人の他人から繰り返し叱責を受けた記憶はない。私の当時の原稿がどこか怒りと悲痛さを漂わせているのはそこに起因している。

若かった私は、毎日通勤の車の中で、「教師を辞める時には、絶対あいつをぶん殴って辞めてやる」と本気で思っていた。それでも初任から2年間は多少熱があろうとも一度も休まなかった。それは単に意地を貫いていたからだけではない。一度弱気になれば、もう先には進めないと分かっていたからである。

時は流れ、あと半年で長かった私の教員生活が幕を閉じる。古い書簡とともに振り返った我が人生。長い小説を読み終えた後のように、たった一言自然と口から漏れた言葉がある。

「ああ、面白かった！」



桧沢小学校春の風景

## 合同研修会だより

令和4年・現職・退職校長会合同研修会より

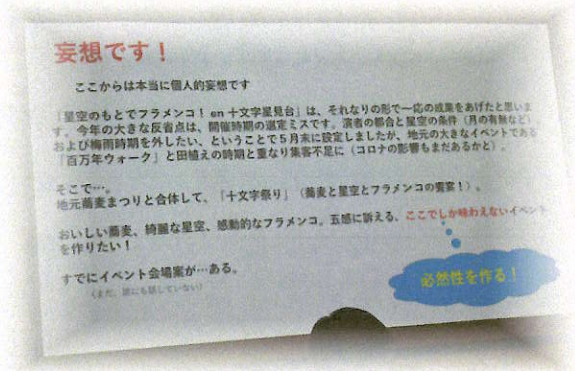
8月19日（金）御蔵入交流館において令和になって2度目の合同研修会が開催されました。（研修会参加者 現職校長会20名，退職校長会13名）懇親会は中止でしたが，小林支部長の挨拶の中では，3年ぶりに合同研修会を開催できた意義を強調されました。講演は下郷町十文字「星見台」台長 岸 正一様，体験発表は会員の湯田耕衛様からあり，貴重な研修となりました。

### （1）講演「十文字星見台のこれまでとこれから」



星見台 台長 岸 正一 様  
岸さんは会社を退職後に平成30年に川崎市から下郷町に移住されました。女性でも安全に星を観られる場所作りに奔走し，水と電気とトイレを備えた画期的なスポットを「十文字星見台」としたそうです。4台の望遠鏡・カフェ9席を常設しコーヒーと簡単な食事を提供しています。独創的なのは，野外ライブステージを備えフォークロックやフラメンコまで上演しています。まさにジョイントやコラボの先駆者と称される方です。星に魅せられ人との繋がりに感動し，「十文字」に落ち着きました。

星がうらやましいほどきれいな南会津の満天の夜空を我々は自覚していないのかなと気づかされました。我々以上に南会津の良さを知り，自分の夢実現のために様々な企画をする行動力に感服しました。南会津再発見の機会に遭遇した研修会でした。特に「繋がり」について再認識させられました。長い人生の中で，どんな地域・どんな人とでも自分の目的・目標・夢を語り合う中でどう折り合い，人との関わりを大切にすべきかを学んだ気がします。※キャンプ泊（オートキャンプ含め）も可能です。



研修会前の自己紹介

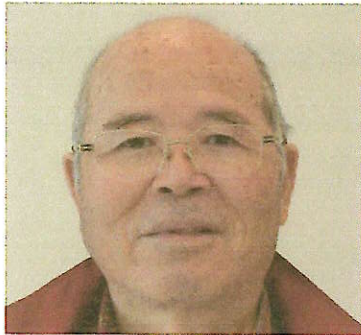
←現職小学校長

現職中学校長→



(2) 体験発表「俳句は日記である」

南会津支部会員 湯田耕衛 様



湯田先生は退職後も多趣味な方で、元気そのものです。趣味を道楽と呼び、精力的に南会津のみならず、県内外を駆け回ってきた方です。カメラを片手に四季折々の風景・風物を愛情たっぷりに表現されてきました。とりわけ「俳句」には造詣が深いばかりでなく、日々研鑽されている方です。その一端を発表していただきました。

「タイトル」のように俳句を通じて日々を振り返る姿には、見習ってもなかなか実践できないものです。ある時は極めて厳しい現実と向き合い一句詠み、何気ない日常を鋭い目で観察されているのです。日々の語らい、触れあいの中から生まれるユーモア溢れる作品もあります。

お茶のペットボトルのラベルにも掲載された思い出の一句もあります。  
【※伊藤園 おーいお茶新俳句大賞 都道府県賞作品 西瓜割太平洋が笑ってる】

同人と「おくやま吟社」で定期的に活動され交流も深めておられます。(趣味の写真同様数々の賞に輝いています。) 作品をジャンル別に整理され、回顧録のように懐かしんでいました。

印象深かったいくつかの作品を紹介します。

- 一、癌告知  
佳1、五月雨や 妻には言えぬ 癌告知  
入2、妻も癌 我も癌なり 若葉風
- 二、ぼほ  
※会津の方言「深い新雪」「足跡もないような深雪」をいう。  
※檜枝岐村「表層雪崩を呼び起こす新雪・深雪」をいう。  
佳3、白粉を 落とす役者や 星月夜  
5、村歌舞伎 端役の上司 討たれけり  
6、底抜けに 降る雪五尺 とうに超え  
7、ぼほ予測 勘の鋭き 村人よ
- 三、海市  
佳1、震災の 街を海市と 思ひたし  
佳3、曼珠沙華 この国三度 被曝せし  
秀4、原発の 廃炉は遅々と 春怒濤  
5、花散るや 校舎の隅の 線量計
- 四、天領  
※奥会津地方・御蔵入地方は江戸幕府の直轄地すなわち天領と呼ばれていた。  
賞〇 茶碗酒 百日雪と 暮らしけり  
秀〇 集落の 織子総出や 雪晒  
佳〇 晴渡る 天領の地の 初音かな  
優〇 今朝もまた 余尺の雪を 掻きにけり  
秀〇 満天の 星の雫や 夜干し梅  
佳〇 過疎の村 会津身知らず 熟れしまま
- 〇 賊軍と 呼ばれし会津 立葵  
(第二十四回右城暮石顕彰全国俳句大会入選作)

趣味の活動

「福島県老人クラブ連合会・元輝新報」より

元輝「柳に投句されてゐる方もいらつひやいます。  
課題「声」 南会津町田島 湯田耕術

大きくしやみ 皆振り返る 植木市

色つばい 声と茶化され 風邪治る 星 富子  
檜枝岐村下ノ原

課題「ベット」 檜枝岐村下ノ原 星 富子  
角きばが 丸くなつても ペット無理

「只見俳句会」より

不安げに 巻きひげ伸ばす 齋藤修一  
胡瓜かな

進級の 不安を話す 桜餅

「おくやま吟社 例会」より

南会津町田島 湯田耕術

うすもの  
羅に 角帯凍と 伊達男

紫陽花の 彩りませる 小糖雨

南会津町滝原 五十嵐利明

盆の客 皆去りて行き 夜の雨

走り梅雨 百寿の母の 背中揉む

南会津町長野 星 弘明

咲き上る 丈の高さや 立葵

幼な児の 頬の産毛や 風光る



令和四年春の叙勲

瑞宝双光章・教育功労 齋藤龍雄様  
令和四年四月二十九日受章

お悔やみ申し上げます

故 星 義夫様（下郷町豊成）

令和四年三月十九日ご逝去 九十歳

故 月田敏雄様（南会津町田部原）

令和四年四月二日ご逝去 七十八歳

編集後記

多くの方々の寄稿により会報「みなみ  
あいづ」第二十二号を発行できました。  
心より感謝申し上げます。  
手作りの広報・多くの方々に読んでいた  
だける広報を目指してきました。  
猛威を振るう新型コロナウイルス感染症  
対策の中、快く・心温まる寄稿に感謝申し  
上げます。お互いにたくさんの元気をいた  
だきました。全国で感染拡大に歯止めが  
かからない状況ですが、少し下降傾向です。  
医学の力でコロナ禍を乗り切り切りたいです。  
どうぞご自愛を

表紙題字 故桑名完爾先生

表紙写真その他の写真 田中昭一



南会津教育事務所域内の重点事項全体構想

第7次福島県総合教育計画  
学びの変革推進プラン

南会津の風土を踏まえ  
一人一人が夢をかなえられる教育を目指して

- ・福島県市町村教育委員会連絡協議会 南会津支会
- ・福島県南会津郡小中学校長協議会
- ・福島県教育庁南会津教育事務所
- ・家庭教育支援団体
- ・社会教育関係団体

<南会津夢教育2022>  
南会津教育事務所 社会教育推進の重点

『南会津』がつむぐ 南会津ならではの社会教育!

学校・家庭・地域が一体となって取り組む「人づくり」と「地域づくり」

- 地域学校協働の推進**
  - 地域学校協働本部事業(活動)の充実
  - 地域学校協働研究会・地域連携推進協議会・教員研修会の充実
  - 地域学校協働活動状況の把握及び情報発信
  - 就読子ども教室の活動状況の把握及び情報発信
  - 「福島県地域学校協働本部」の充実
  - ボランティア人材の発掘と人材リストの更新及び活用促進
  - 地域・学校の連携強化
  - 社会教育関係機関の育成・支援
  - 社会教育研究会の充実
  - 公民館講座・公民館事業の充実
- 家庭教育支援の推進**
  - 「地域でつながる家庭教育推進事業」の推進
  - 地域家庭教育推進ブロック会議の充実
  - 親子の学びの推進の支援
  - 家庭教育支援地域協議会の充実
  - 家庭教育推進委員会との連携強化
  - 家庭教育支援チーム(FA)の活用支援
  - 「ふくしま十七歳までようねんねあい支援事業」の推進
  - 専業主婦の増加及び活動の強化
  - 応募作品の積極的活用
  - PTA・関係団体活動の充実
  - PTA連合会研究大会への支援
  - 家庭教育支援等への協力
- 子どもが夢をかなえられる教育**
  - 「チャレンジ!子どもが夢をかなえる体験活動推進事業」の推進
  - 夢家の開かれ及び広場の強化
  - 取組団体への支援
  - 「ふくしまの未来をむかえる読書の力プロジェクト」の推進
  - 読書活動支援者育成地区別研修会の充実
  - ヒブリアサイトの開かれ及び広場の強化
  - 読書開かせボランティアの活動把握及び情報発信
  - 読書子ども教室の読書活動推進計画の支援及び活用促進

学校・家庭・地域・関係機関・NPO団体・企業・社会教育施設等との連携

<南会津夢教育2022>  
南会津教育事務所 学校教育指導の重点

『南会津』がつむぐ 南会津ならではの学校教育!

郷土を愛し、夢や希望をもつてともにたくましく生きる子供の育成

- 自ら学ぶ子供の育成**
    - 「主体的・対話的で深い学び」の展開に向けた取組
    - 單元及び本時のねらいを明確にした授業づくりと評価方法の工夫改善
    - 一人一人の学習状況の把握と個別に合わせた指導の充実
    - 各教科・領域等の別添削・書き添削の活用・改善
    - 学方向上 RPOCA サイクルの確立
    - 一人一人の「学びの伸び」に着目した指導と改善
  - こころ豊かな子供の育成**
    - 道徳教育の充実
    - 学校教育活動と関連つけた道徳の授業の充実
    - 「議論する」道徳の授業の充実
    - 子供の実感を生かす評価の工夫
    - 豊かな人間関係づくり
    - 一人一人が個性を伸ばし自己実現できる学習づくり
    - 道徳の楽しさや所感の意味を体感する活動の充実
    - 学校教育活動と関連つけたキャリア教育
  - たくましく生きる子供の育成**
    - 体力の向上に関する取組の充実
    - 自己(自他)の課題を見付け、その解決につながる指導方法の工夫改善
    - 具体的な解決策を思いついた「体力向上推進計画」の策定と実施
    - 食育・健康教育の充実
    - 自分手帳の効果的活用による健康マネジメント能力の育成
    - 防災、うね等の課題解決に向けた相関的な取組の推進
    - 学校安全の推進
    - 自ら考え、判断し、行動する力を育む防災教育の推進
- 特別支援教育の充実
- 「個別の教育支援計画」を活用した指導や困難者による何れもない支援の充実
  - 児童生徒の教育的ニーズの三つの観点から踏まえた整理
  - 学習の遅れや特別な指導内容や教育的な配慮を含む必要のある児童の対応
  - 本人・保護者が参画して作成した「個別の教育支援計画」の活用
  - 「交流及び共同学習」や多様な学びの場の充実・整備の推進
  - 管理職のリーダーシップの下、特別支援教育コーディネーターを中心とした教育支援体制の整備と充実
- 教育効果を高めるために
- 効果的なICTの活用と情報モラル教育の推進
  - 特別研修の充実
  - 職員能力向上のための「キャリアアップ」の推進

学校・家庭・地域・関係機関・各種団体等との連携



「つむぐ」とは  
学校教育と社会教育相互の連携をもとに、各学校や町村教育委員会、関係機関との連携をより意識した取組を推進すること、各校、町村教育委員会相互の連携を図ること

- 【地域・関係機関との連携】  
□ニーズの把握と迅速な対応
- 【高い倫理観の確立】  
□不祥事・学校事故の絶無
- 【豊かな教育環境の形成】  
□安全で安心できる学習環境の整備

役員一覧

顧問	星 富子	監事	佐藤 誠一	第2方部	盛 義夫	
	五十嵐利明		斎藤 龍雄		大塚 聖子	
支部長	小林 宗一	広報部長	田中 昭一	第3方部	橘 成美	
		クラブ長	星 賢二	第4方部	飯塚 義雄	
副支部長	星 弘明 玉川 邦夫 星 尚子 齋藤 修一	理事	室井 永治	事務局長	川島 敬章	
		第1方部	山本 恭士		庶務会計	室井 榮子
		第2方部	松田 幸雄		県評議員	小林 宗一
			星 俊夫			川島 敬章
			佐藤 淳一			

## 思い入れを表紙に



幽玄の美 檜枝岐歌舞伎  
約270年の歴史と伝統に支えられ  
およそ100年 千葉之家花駒座と共に



滝湖のコハクチョウ(只見町)  
2011夏 新潟・福島大水害で数年  
飛来せず ようやく 少しずつ回復



復興「JR只見線」(只見町)  
なつかしの キハ40系  
復興ヒマワリと 蒲生岳



あがりこの森(只見町蒲生具奈川)  
大昔に雪上伐採  
今はメルヘンの世界